



ささのこ

1月号

令和8年1月8日
世田谷区立笹原小学校
03-3428-8383
校長 吉田 健二

創立69年を迎えるにあたって - どんど焼き 笹原小学校の伝統をつなぐ -

校長 吉田 健二

令和8年、新年あけましておめでとうございます。今年は十二支でいうと午（うま）年になります。諸説ありますが、さっそうと駆け抜ける馬のように、物事が勢いよく進展し「成長や成功・繁栄のシンボルとして縁起がよい」と言われているそうです。笹原小学校の子どもたちが、心身ともにすくすくと成長する年になってほしいと思います。

さて、お正月の風物詩の一つに年賀状があります。明確な起源は不明とされているものの、平安時代後期には、人々は対面を主としながらも、年始のあいさつを手紙によって交わし合うことがあったという記録が残っているそうです。現在発行されているようなお年玉くじ付き年賀はがきが最初に発行されたのは昭和24年12月だったとのことで、これも今年で77年続く伝統の一つとなっています。

私自身も社会人になってからは、毎年かなりの枚数の年賀状を書いてきましたが、年末の忙しい時期に、時間をかけて作成する必要があり、少し苦手意識をもっていました。ここ十数年ほどはパソコンの年賀状作成ソフトを利用していることもあり、時間的な負担はそれほどでもなく、少し余裕が出ていました。ところが、年賀状を受け取ったり、出したりする枚数は、ここ数年減少する一方です。やり取りをしていた相手から、年賀状終いの挨拶をいただいたり、年賀の挨拶をSNSへ移行するとの連絡をいたしたりすることが増えてきたことがその一因です。実際、今年の元日に全国で配達された年賀状は、前年比26%減、17年連続の減少だったと報道されていました。日本の年賀状文化も、近い将来には、衰退しかねない危機に直面していると言われているようです。

さて、笹原小学校の新年の風物詩といえば、毎年1月に校庭で行われるどんど焼きです。今回、この巻頭言を書くのにあたって、改めて本校の学事報告を過去に遡って調べたところ、昭和55年度の在校生の皆さんのが、昭和56年1月に行ったのが第1回だったことが分かりま

した。下の写真は、昭和62年発行の創立三十周年記念誌に、掲載されているどんど焼きの写真です。開始から7年目を迎えたときの貴重な様子が記録に残っています。

どんど焼きは毎年楽しみにしています。
火がとてもきれいに見えて
どんど焼きになります。
どんど焼きの火を見る
うれしくなります。
今年一年がんばろうと言う
決心ができます。



どんど焼き

学校には、創立以来の卒業生やその保護者、地域の皆様、教職員が築きあげてきた伝統や流れがあります。この流れを大切にしながら、その時々の関係者が、次に繋いでいく視点をもつことが大切だと思います。コロナ禍で中止せざるを得なかった時期を挟んで、46年目を迎える本校のどんど焼きも、近年は、PTA遊び場開放運営委員会、おやじの会、OBおやじの会、(有) 笹原園、世田谷トラスト富所様、世田谷消防団第16分団他、多くの関係者・ボランティアの皆様に支えられて行われてきました。

今年のどんど焼きは、1月10日（土）10時30分点火で行われます。今年は授業時間に行い、学校行事として全校児童が点火式に参加し、新年の健康や目標の成就を願います。

伝統文化や伝統行事が継続していくことが、当たり前ではない時代になっています。これまでの流れを踏襲していくのにも、改めていくのにも、「地域の学校」として、関係者の皆様の思いを大切にして考えていくたいと思っています。学校にとって最もかかわることの多い、学校関係者であり地域住民である多くの保護者の皆様にもご参加いただき、子どもたちと共に楽しんでいただきたいと思います。

そしてその中から、今後もどんど焼きを「無理なく」「楽しく」支えていただけるサポートーとなってくれる方が出てきてくだされば、大変ありがたいと思っています。

●令和7年度の「重点目標」

◇学ぶことを楽しみ、主体的に学び続ける子どもの育成

◇人権意識（やさしい心、思いやりの心、多様性を尊重できる心）をもった子どもの育成

◇心身ともに健康で、目標に向けて粘り強く努力できる子どもの育成